

冷涼地における露地イチゴの二期穫りについて

田村 保男・藤本 順治・畠山 順三

(秋田県農業試験場)

1 ま え が き

最近、食生活の向上に伴いイチゴの需要は年々着実に伸びており需要は周年化している。

その生産面をみると11月から4月までは施設もの、5月から6月までは露地ものの作型となっており、7月から10月までの5カ月間は生産が少ない。

この端境期に北東北の夏季冷涼な気象条件を活かしたイチゴの作季拡大をはかることは経営上極めて有利な栽培になると考えられる。

このようなことから、露地イチゴの二期穫り(同一株から春・秋)栽培について試験したので、その概要を報告する。

2 試 験 方 法

年2回穫りをするには春に収穫した株に2回目の花

第1表 試験Ⅰ 試験方法

区	日長時間	短日処理期間	短日操作方法
1 開花始短日処理開始区	8時間	20日間(5月21日～6月11日)	シルバーポリ・トンネル被覆(16時～8時)
2 収穫始短日処理開始区	8時間	20日間(6月11日～7月1日)	
3 無処理区(自然区)	自然		

第2表 試験Ⅱ 試験方法

区 別	温度条件	日長時間	短日処理期間	温度・短日操作方法
1 17℃短日区	昼夜17℃恒温	8時間	20日間(5月22日～6月11日) (第1季開花始めから)	グロースキャビネット内でシルバーポリ被覆
2 17℃自然日長区	昼夜17℃恒温	8時間		
3 自然区	自然	自然		

3 試 験 結 果

試験Ⅰ……再度開花し二期穫りできたのはレッドガントレットの開花始め短日処理開始区とレッドガントレットの収穫始め短日処理開始区だけであり、ダナー、宝交早生、幸玉の3品種はいずれの区でも開花しなかった。

レッドガントレットの開花始め短日処理開始区の二期目の開花始めは7月18日で、収穫始めは8月15日であった。また、収穫始め短日処理開始区の二期目の開

芽を誘起させることが必要となるので、花芽形成におよぼす日長、温度の影響を検討した。

試験Ⅰ 短日処理開始時期について

試験区は第1表のとおりで、供試品種はレッドガントレット、ダナー、宝交早生、幸玉の4品種を用い、日長8時間の短日処理を行なった。各区20株の2区制で、定植は昭和49年10月5日、畦幅110cm、株間20cm、条間40cmの千鳥植えとした。

試験Ⅱ 恒温条件下における短日処理がイチゴの花成におよぼす影響について

試験区は第2表のとおりである。供試品種は試験Ⅰと同じ4品種で1区10株単区制とし、定植は昭和49年10月5日に鉢植えとした。

花始めは8月16日で、収穫始めは9月7日であった。

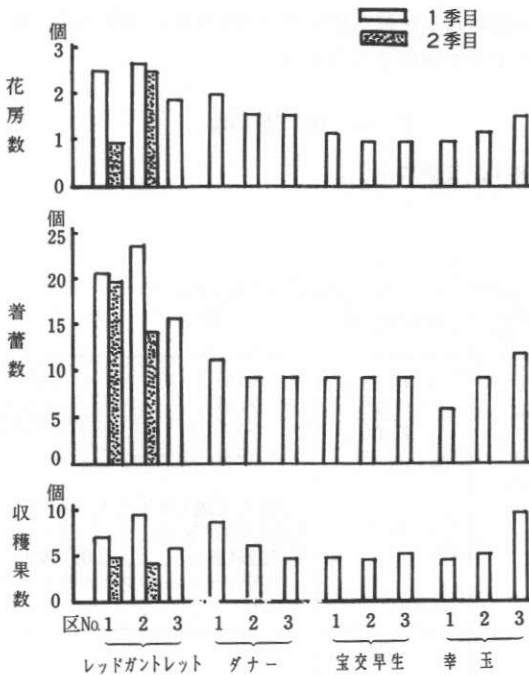
二期穫りできた両区の収量を第1図に示したが、両区とも二期目の花房数、着蕾数および収穫果数は一季目より若干少な目の傾向があった。また、果実の糖度、酸度も二期目は一季目より低目の傾向にあったが大きな差ではなかった。

試験Ⅱ……自然区ではいずれの品種も二期目の開花は認められなかったが、17℃短日区ではレッドガントレット、ダナー、宝交早生の3品種が二期穫りできた。レッドガントレットは17℃下では自然日長でも開花し

二期穫りできた。これに対して幸玉は、本試験の処理日数では短日条件を与えても二期目の開花はみられなかった。

第3表 レッドガントレットの収穫果実の糖度と酸度

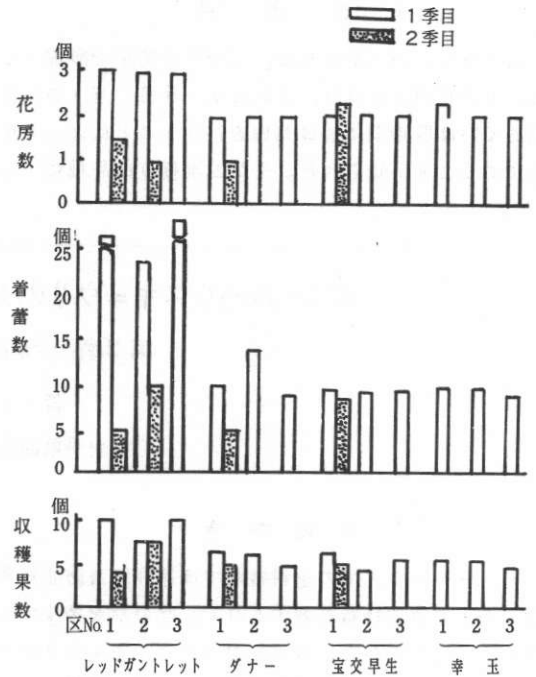
区 別	1 季 目		2 季 目	
	糖 度 (Bx)	酸 度 (pH)	糖 度	酸 度
開花始短日処理開始区	8.0	3.5	7.6	3.1
収穫始短日処理開始区	8.0	3.5	6.9	3.0
無処理区(自然区)	7.4	3.2		



第1図 1株当りの花房数・着蕾数・収穫果数

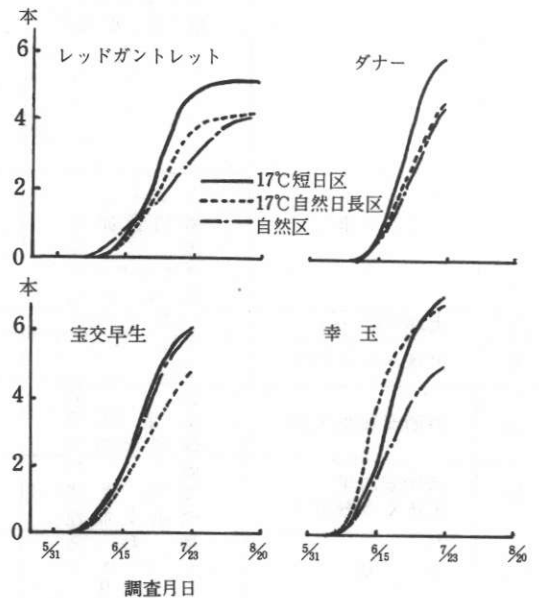
二期穫りできたレッドガントレット、ダナー、宝交早生の17℃短日区の二期目の開花始めは、それぞれ8月12日、8月19日、8月16日であり、収穫始めは8月30日、9月8日、9月5日であった。また、レッドガントレットの17℃自然日長区の二期目の開花始めは8月18日で、収穫始めは9月5日であった。

収量をみると、第2図に示すように二期目の花房数、着蕾数および収穫果数とも一季目より少ない傾向がみられた。



第2図 1株当りの花房数・着蕾数・収穫果数

生育では、一般に二期穫りできた区が、できなかった区より初期生育が抑制されている傾向であった。ランナーの発生を第3図に示したが、各品種とも、17℃短日区が他区より発生始期が遅れる傾向がみられた。



第3図 ランナーの発生

4 ま と め

同一株からの二季穫りは、二季目の花芽を形成させることが前提となるが、これには一季目（春）の開花期あるいは収穫期に短日処理を行なうことによって可能であることが知られた。また二季穫りは品種によ

て難易のあることが知られた。

今後、二季穫り栽培技術を確立するには品種の選定と、花芽誘起の安定化をはかるための短日処理時期・方法および二季穫りイチゴの品質向上をはかるための肥培管理等を検討することが必要である。

ビニールハウスキュウリのクンタン養液栽培に関する研究

第 2 報 養液の種類について

菅 野 清 司

(岩手県園芸試験場南部分場)

1 ま え が き

ビニールハウスでの土耕栽培では連作障害防止対策面で多大の労力経費を要するので、此の点を多少でも軽減すべく47年から、49年まで3カ年、キュウリのモミガラクンタン養液栽培を実施した結果、実用化も可

能と思われる養液の種類について一応の成果が得られたのでその結果を報告する。

2 試 験 方 法

第 1, 2 表に示す。

第 1 表 試 験 区

試番	試 験 区	肥 料 名	水100ℓ当 施 用 量	a当成分量	備 考
①	ノルチッソ	ノルチッソ 過 石 硫 加 クイックマグ 微 量 要 素	125.6 g 25.0 50.0 25.0 5.0	17.56 5.25 25.00 4.75	N 14 % P 21 % K 50 % Mg 19 % 硫酸第 1 鉄(鉄として) 6.72 硫酸亜鉛(亜鉛として) 0.07 硫酸銅(銅として) 0.03 モリブ デン酸ソーダ(モリブデンとして) 0.026
②	ノルチッソ 燐硝安加里	ノルチッソ 燐硝安加里 硫 加 クイックマグ 微 量 要 素	65.0 50.0 35.0 25.0 5.0	9.10 17.50 4.75	N 16 P 10 K 14 %
③	大坪 OKF-1	(15-8-17)	287.5		N 17.25% P 9.20 K 12.55 Mg 23
④	大塚ハウス肥料	1 号 2 号	100.0 68.0	10.00 7.48	N 10 P 8 K 23 Mg 5 N 11.8
⑤	燐硝安加里主体	硫 量 加 微 量 要 素 燐硝安加里	35.0 5.0 116.0	17.50 11.60	
⑥	燐硝安加里 主体 (5割増)	硫 量 加 微 量 要 素 燐硝安加里	53.4 7.6 179.0	88.00 17.40	
⑦	土 耕 追 肥	稲 わ ら ケ イ フ ン C D U V 2 3 号		(施用量) 50 kg 10 kg 15 kg 6 kg	N 500g P 400g K 200g N 2,250 P 2,250g K 2,250g N 13.8 P 1.21g K 13.8g